



長門湯本温泉景観ガイドライン（案）

平成30年3月

長門市



ガイドラインの目的

【長門湯本温泉が持っている力とは】

長門湯本温泉は、山に囲まれた谷あい、散策に適したコンパクトなスケールで町並みが広がり、その中心に音信川とその支流である大寧寺川、三ノ瀬川が潤いを与え、自然に恵まれたのどかな景観を有しています。

そこに、大寧寺の歴史、萩焼深川窯の文化、温泉街の賑わいをはじめとする豊かな営みが加わり、独自の風情と気高さを培ってきました。

【町並みを見つめなおしてみよう】

こうして培われてきたものは、何にも代えがたい地域だけの魅力です。一方で、人々の暮らす町並みは、時代により移り変わるものであり、これまでも、そしてこれからも変化していきます。

変化の中でも何を守っていくべきか、そしてこれから何を生み出すことができるか、「長門湯本温泉観光まちづくり計画」（平成28年8月 長門市）をきっかけに、まちの姿が大きく変わりつつある今、改めて考えていくことが大切です。

景観形成を一つのきっかけとし、「訪れたい風景」、「散策する楽しさ」を地域自ら作り出していくため、今暮らしている町並みを見つめなおしてみましょう。

【まちの価値を高め、伝えていこう】

「景観」「町並み」と言っても、個々に実現できることではないと感じるかもしれません。確かに、たった一人が、部屋の灯りの色を変えたとしても、まちの情緒は生まれないかもしれません。しかし、一人が変えなければ、みんなが変わることもありません。各々の動きが積み重なるための将来像とルールが共有され、これに基づく実践が折り重なることが、地域の輝きとまちの価値を生み出し、「住まう誇り」に結びつきます。

長門湯本温泉景観ガイドラインでは、景観形成の観点から、何がまちの価値を高めるか、そのために一人ひとりが具体的にできることが何か、を提示することを目指しています。本書を手に取り、目指す将来像を共有し、現状を点検し、できることから実践していく、そうした動きが一つでも多く生まれることを期待しています。

ガイドラインの策定プロセス

【策定プロセス】

- ・ガイドラインの策定プロセスでは、公共空間活用や夜間照明に関する社会実験や地域住民の参加するワークショップ、大工・工務店・設計者等の参加するワークショップを開催し、様々な観点からガイドラインをまとめまています。



道路空間活用に関する
社会実験の様子



夜間照明に関する
社会実験の様子



地域住民の方々との
ワークショップの様子



大工・工務店・設計者等との
ワークショップの様子

ガイドラインの使い方

【ガイドラインの使い方】

本書を使って、実際に景観形成を進めていきましょう。とは言っても、何からどう手を付けてよいかわからない。そんな時には、以下のステップを参考にしてみてください。

ステップ１：作りたいまちの姿を共有しよう。

まちの姿は住民のみなさんの姿の集合体。どんなまちが良いか、どんな活用をしたいか、ワークショップや社会実験を通じてまとめたのが、「みんなで目指すまちの姿」です。これを手に取り、自分が登場人物になってどんなことがしたいか、できるか、考えてみましょう。ご家族やご近所の方と一緒に話をしながら、想像することも有効です。

ステップ２：ご自宅やご自身の商店・旅館を点検しよう。

「項目別ガイドライン」には、作りたいまちを目指してどんな工夫をするとよいか、要素ごとに記載しています。屋根はどうか、駐車場はどうか、ガイドブック片手に点検してみましょう。

ステップ３：できることを見つけて実践しよう。

景観形成に向けた取り組みは、大きな工事をするときにしかできないものではありません。商店・旅館の前に休憩スペースを提供する、自宅の川から見える箇所を意識して、灯りや植物で少し彩りを加える、など、ちょっとした工夫でできることがたくさんあります。まずは、できることから実践してみましょう。

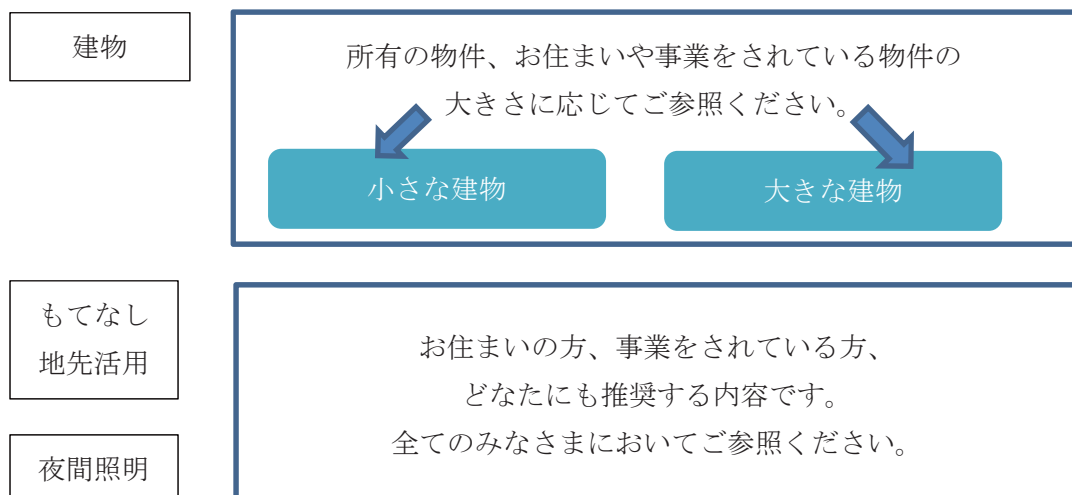
ステップ４：改築・修繕のタイミングをとらえて。

改築や修繕、模様替えや色彩の変更のタイミングでは、本書を設計・施工を担う事業者にも共有し、ガイドラインに沿った改築を進めましょう。長門湯本地区景観計画に基づく届け出も必要になります。

ガイドラインの構成

【ガイドラインの構成】

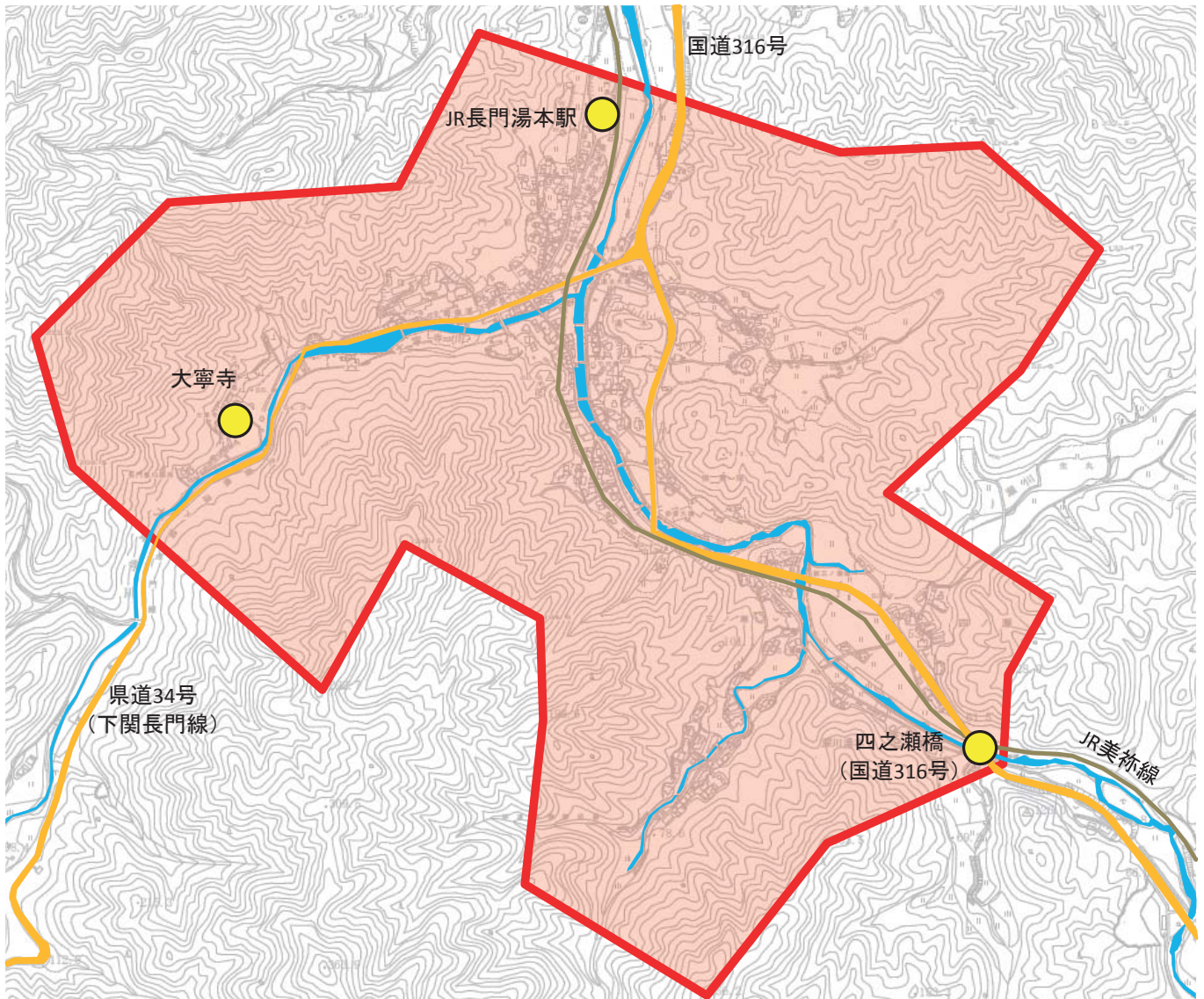
- ・本ガイドラインは、対象地区のみなさんに推奨していくルールとして、建築に関するルール、夜間景観に関するルール、おもてなしに関するルールの３項目で構成しています。
- ・建物に関するルールについては、「２階建て以下の規模の小さな建物に対するルール」と「３階建て以上の規模の大きな建物に対するルール」に分けて記載しています。



対象区域

【対象区域】

- 対象地区は、湯本地区、門前地区、三ノ瀬地区の3地区で、範囲は下図の景観計画区域と同様の範囲を対象とします。



ガイドラインの運用方法

【運用方法】

- 本ガイドラインは「長門湯本地区景観計画」に基づき運用します。
- 対象区域内での届出の対象に当たる行為（建物・工作物の新設、増築、改築若しくは移転、外観を変更することとなる修繕若しくは模様替又は色彩の変更）を行う場合には、本ガイドラインとの対応を協議することが必要です。

みんなで目指すまちの姿

【みんなで目指すまちの姿】

- ・「長門湯本温泉観光まちづくり計画」（平成28年8月 長門市）では以下の将来イメージを目指しています。このような将来像を実現するため、「全体景観の形成」、「道路空間の活用」、「河川空間の活用」、「おもてなしの演出」、「夜間景観の演出」の5つのアプローチで進めていきます。
- ・そして、これら5つのアプローチに対する具体的なルールや方法をまとめているのが項目別のガイドラインです。項目別ガイドラインは、『建築・外構編』、『夜間景観編』、『おもてなし編』の3項目で整理しています。



みんなで目指すまちの姿を実現する5つのアプローチ

【全体景観の形成】

谷あいの風情と伝統を守り育てる

長門湯本温泉は、山に囲まれた谷あいに、散策に適したコンパクトなスケールで町並みが広がり、その中心に音信川とその支流である大寧寺川、三ノ瀬川が潤いを与え、自然に恵まれたのどかな景観を有しています。長門湯本温泉ならではの谷あいの風情と伝統を守り育てていきましょう。



【道路空間の活用】

楽しく安心してそぞろ歩きできる温泉街をつくる

川を中心とした温泉街を散策することは長門湯本温泉の大切な魅力です。川沿いの道路や遊歩道、橋、路地などの公共空間を活用することやそれらの夜間景観を演出すること、川沿いの町並み景観を整えることを通して、昼も夜も楽しく安心してそぞろ歩きできる温泉街にしていきたいと思います。



【河川空間の活用】

川のせせらぎを楽しむ空間をつくる

長門湯本温泉の中心を流れる音信川とその支流である大寧寺川は、川沿いだけでなく川中が散策できる魅力的な河川です。川を眺めることはもちろん、川床や置き座の実現、川を活用したイベントなどを通して、川のせせらぎを楽しむ空間をつくっていきましょう。



【おもてなしの演出】

観光者と共に暮らしを楽しむ気持ちをまちに表現する

長門湯本温泉らしい町並みをみんなで育てていくことが大切です。ちょっとしたおもてなしの表現から始まり、公共空間活用、サイン・看板、照明、塀垣、駐車場、店構え、修景やリノベーションなど、観光者と共に暮らしを楽しむ気持ちをまちに表現していきましょう。



【夜間景観の演出】

情緒ある心地よい夜間景観を演出する

川沿いを中心に夜間景観を演出することで、暗くなっても安心して外湯巡りやそぞろ歩き、屋外での飲食などが可能となります。また、夜間の魅力づくりは観光客が宿泊することやオフシーズンの魅力づくりにも繋がります。情緒ある心地よい夜間景観を演出しましょう。



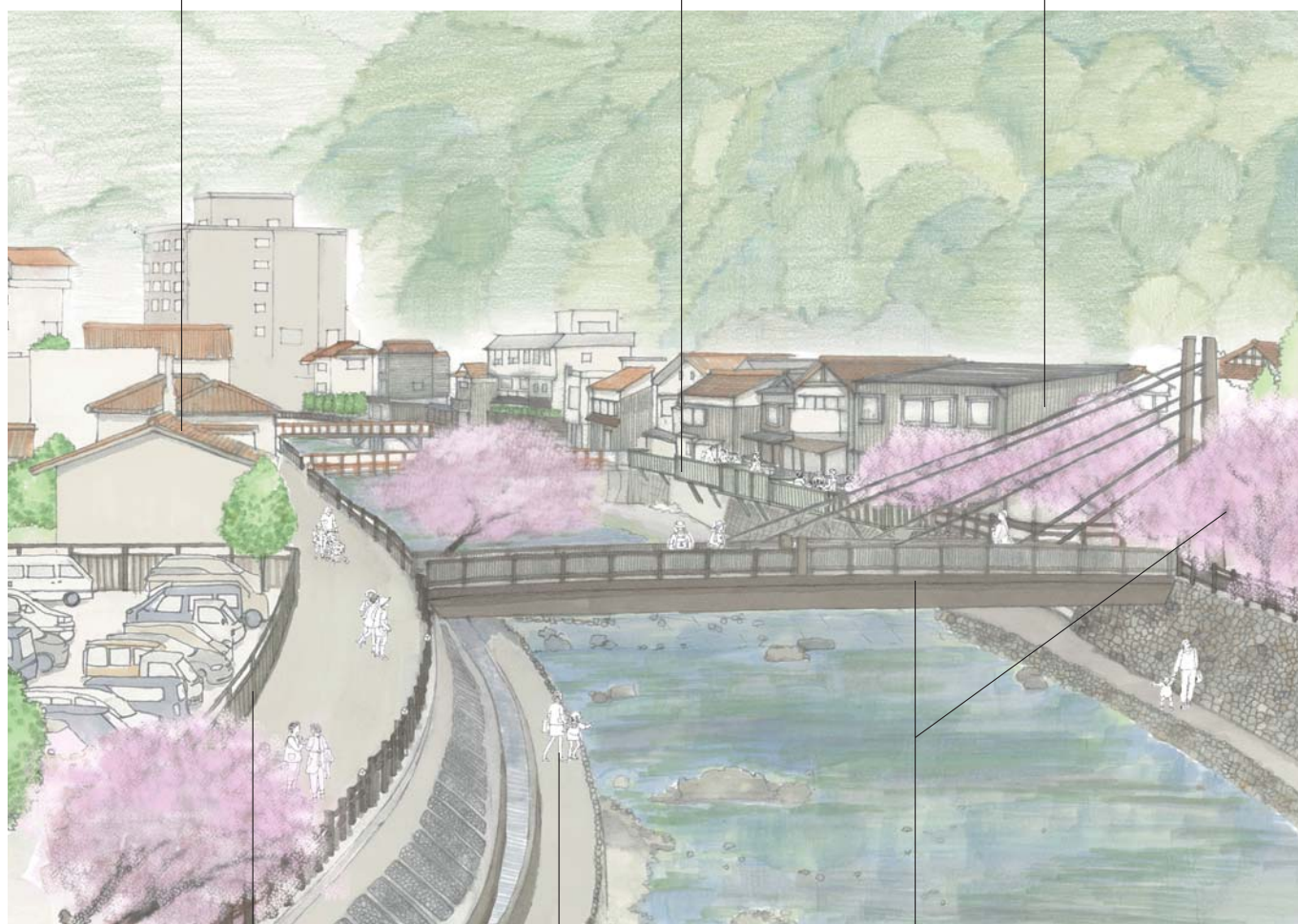
谷あいの風情と伝統を守り育てる

- ・長門湯本温泉は、山に囲まれた谷あいに、散策に適したコンパクトなスケールで町並みが広がり、その中心に音信川とその支流である大寧寺川、三ノ瀬川が潤いを与え、自然に恵まれたのどかな景観を有しています。長門湯本温泉ならではの谷あいの風情と伝統を守り育てていきましょう。

段階的に長門湯本らしい
赤瓦の温泉街の風情を再生
(建 築)

置き座を設置し
川を眺める場所を創出
(おもてなし・河川空間活用)

外壁の修景
(建 築)



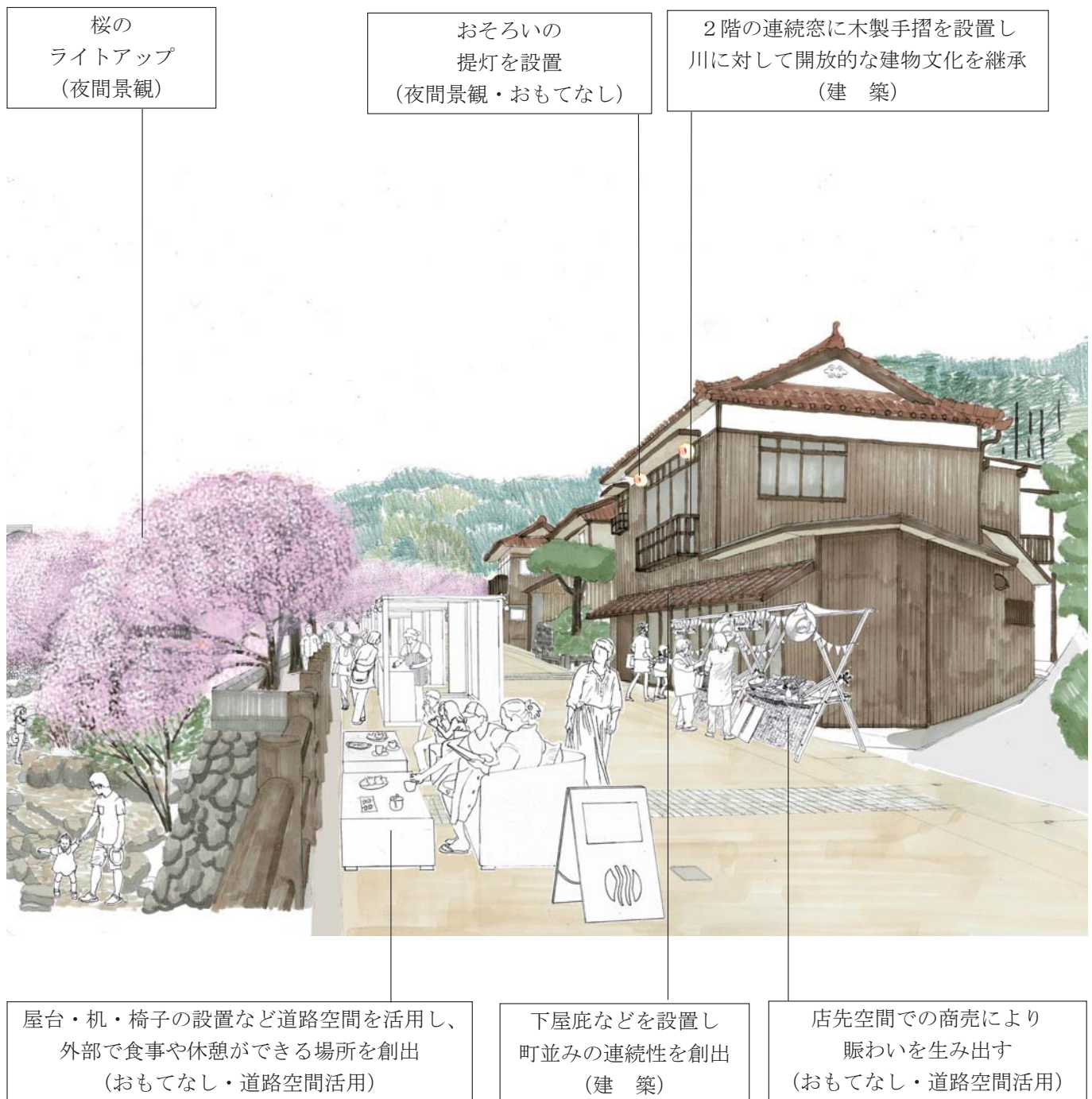
通りに露出した
駐車場を隠す
(建築・外構)

川沿いの
回遊性の向上
(おもてなし)

橋や樹木の
ライトアップ
(夜間景観)

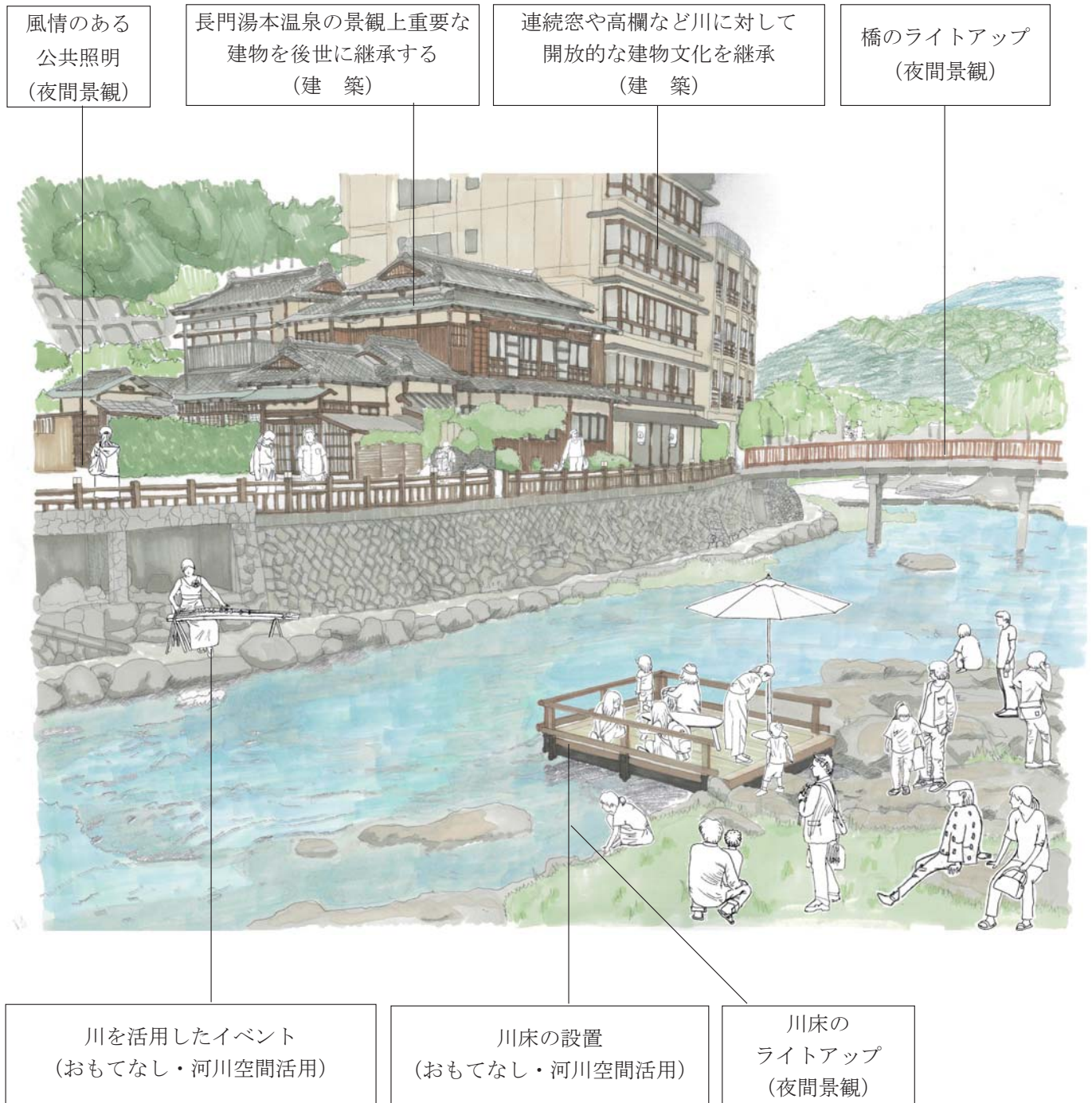
楽しく安心してそぞろ歩きできる温泉街をつくる

- ・川を中心とした温泉街を散策することは長門湯本温泉の大切な魅力です。川沿いの道路や遊歩道、橋、路地などの公共空間を活用することやそれらの夜間景観を演出すること、川沿いの町並み景観を整えることを通して、昼も夜も楽しく安心してそぞろ歩きできる温泉街にしていきたいと思います。



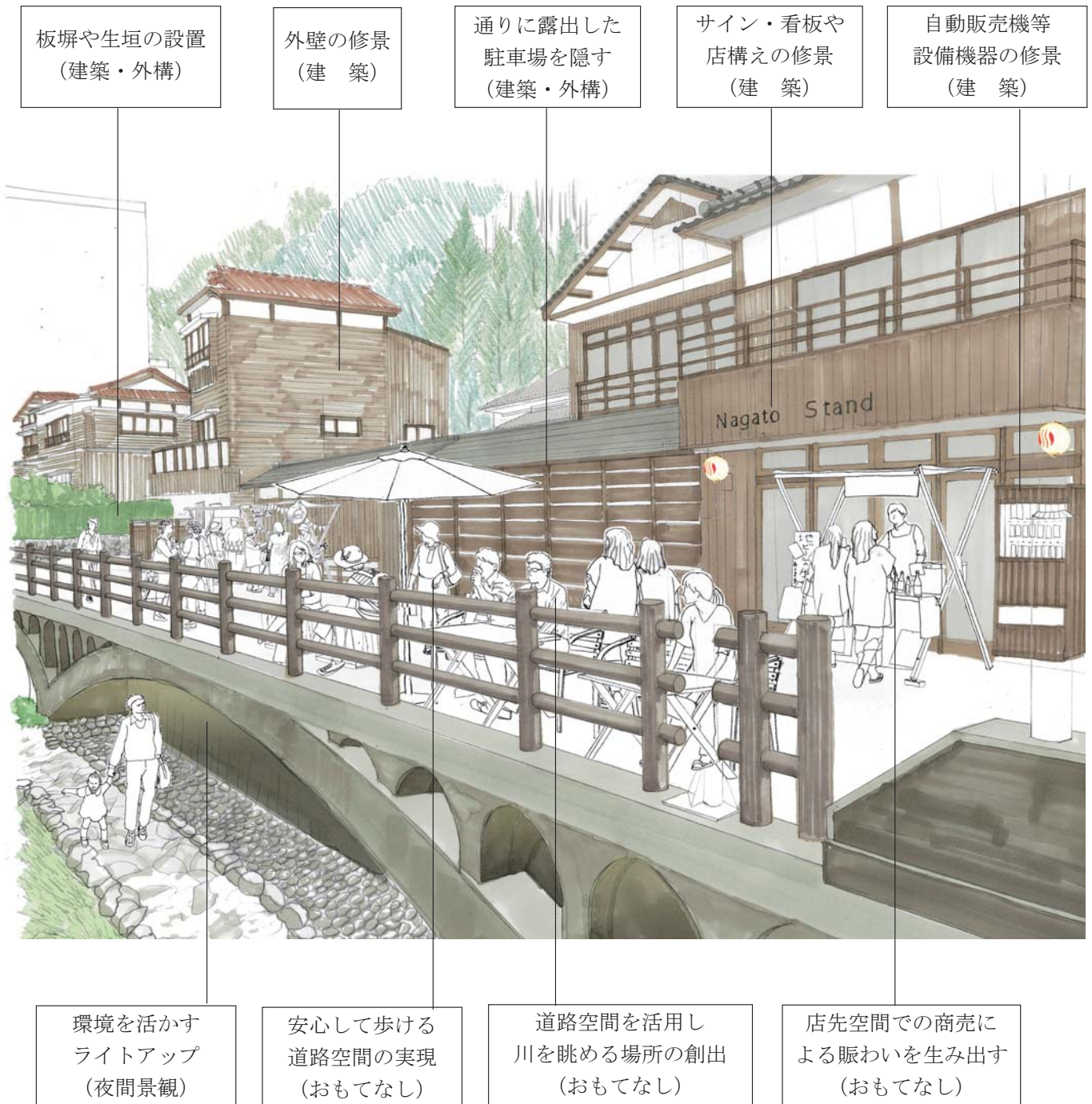
川のせせらぎを楽しむ空間をつくる

- ・長門湯本温泉の中心を流れる音信川とその支流である大寧寺川は、川沿いだけでなく川中が散策できる魅力的な河川です。川を眺めることはもちろん、川床や置き座の実現、川を活用したイベントなどを通して、川のせせらぎを楽しむ空間をつくっていきましょう。



観光者と共に暮らしを楽しむ気持ちをまちに表現する

- ・長門湯本温泉らしい町並みをみんなで育てていくことが大切です。ちょっとしたおもてなしの表現から始まり、公共空間活用、サイン・看板、照明、塀垣、駐車場、店構え、修景やリノベーションなど、観光者と共に暮らしを楽しむ気持ちをまちに表現していきましょう。



情緒ある心地よい夜間景観を演出する

- ・川沿いを中心に夜間景観を演出することで、暗くなってからも安心して外湯巡りやそぞろ歩き、屋外での飲食などが可能となります。また、夜間の魅力づくりは観光客が宿泊することやオフシーズンの魅力づくりにも繋がります。情緒ある心地よい夜間景観を演出しましょう。



建築・外構編：2階建て以下の規模の小さな建物に対するルール

【屋根形状】

屋根の形状は入母屋や切妻、寄棟等の2方向以上に勾配のある屋根とし、軒の出を確保しましょう。勾配は周囲の町並みに合わせましょう。

- ・長門湯本温泉の町並みは段階的に変化してきました。明治後期までは茅葺屋根が多く、その後、瓦葺きの格調高い入母屋屋根が普及してきました。屋根の向きは様々で平入りや妻入りで統一された町並みではなく、多様性のある豊かな町並みでした。
- ・現在では、入母屋屋根よりも切妻屋根が主流となってきておりますが、住宅や店舗の9割以上が勾配屋根です。
- ・軒の出を十分確保することで、建物の外観が美しくなると共に、木造建築を長持ちさせることができます。
- ・屋根勾配は急勾配にせず、周囲の町並みに調和する勾配としましょう。



○勾配屋根の木造旅館



○伝統的な入母屋屋根



×急勾配の屋根



明治後期の茅葺屋根



平入りや妻入りが混在するかつての屋根並み



×陸屋根

【屋根材料】

長門湯本温泉の温泉街らしい佇まいの再生が望まれる湯本地区では、石州瓦などに代表される赤瓦の瓦屋根を基本としましょう。三ノ瀬地区・門前地区では、屋根は瓦屋根を基本としましょう。やむをえず、素材を鉄板葺きとする場合や赤瓦以外の色彩の瓦を使う際には、グレーや黒などの落ち着いた色彩を採用しましょう。

- ・長門湯本温泉周辺の山間地の集落などでは、石州瓦に代表される赤瓦の美しい集落景観が残存しています。
- ・長門湯本温泉の屋根の素材は、明治後期までは茅葺、その後、瓦葺きが普及してきました。現在でも約90%が瓦葺き屋根です。
- ・瓦の色はかつては周辺の集落と同様に赤瓦が多く用いられてきましたが、現在では黒瓦や銀黒瓦なども増え、赤瓦の割合は20%程度となっています。
- ・三ノ瀬地区を中心に、茶室を併設する銀黒瓦の数寄屋の家屋も長門湯本温泉には点在しています。このような文化的背景の観点から銀黒瓦等を採用することも考えられます。



○赤瓦の建物が多い長門湯本温泉周辺の景観



○赤瓦が多いかつての町並み



○湯本地区の赤瓦が点在する現在の屋根並み



現状の三ノ瀬地区の風景



現状の門前地区の風景



現状の湯本地区の風景



×青い瓦屋根

【外壁】

外壁は、板張りや真壁の木組みを基本とし、材料は、木材や塗壁など、自然素材を積極的に活用しましょう。やむをえず新建材などを用いる場合は、色彩は自然素材が経年美化した色調である、白、ベージュ（聚楽系）、グレー、濃茶等のアースカラーを採用しましょう。

- ・長門湯本温泉の住宅や店舗の約5割が板張り及び木組みと漆喰や土壁の真壁造りの外壁です。
- ・木材は将来にわたって確保でき、部分的な補修もできる優れた素材です。また多くの人が長門湯本温泉らしさを感じる材料です。
- ・外壁は、板張りを基本とし、材料は木材や塗壁など、自然素材を積極的に活用しましょう。
- ・対象区域のうち、湯本地区は都市計画で準防火地域と定められており、外壁の軒裏に防火構造が求められます。
- ・これまで、準防火地域では、外壁はモルタル塗とすることや防火サイディングを活用することが一般的でしたが、近年は設計上の工夫で準防火地域でも外壁に木材を活用することが可能です。



昭和初期の恩湯と枕水の外壁は板張り。軒下は真壁木組み現し



かつての小松館の外壁も板張り
と真壁木組み現し



○下見板張りや漆喰に木組みの外壁



○縦板張りや土壁に木組みの外壁



○縦板張りや白壁の外壁



○三ノ瀬にみられる木組みと聚楽系塗壁の外壁



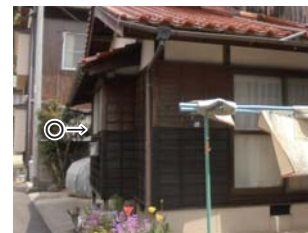
湯本地区は防火対策のためモルタル塗の外壁等が増加



○格子や付柱により外壁に木質感を出す工夫



○準防火地域で木質感を出す工夫（気仙沼市）



○木材なら部分的な板の張替えや塗装がしやすい



×明るい色調の新建材の外壁



×トタンのサビた外壁



×異なる材料のちぐはぐな補修



×派手な色彩の外壁

【開口部】

湯本地区の川沿いの建物の多くは、川への眺望を確保するため、川に対して開放的な設えとし、2階以上に連続した開口部を設けています。このような川を楽しむ文化とそれが生み出す町並みを継承しましょう。

- ・川が町の中央を流れ、2階以上の川沿いの窓から、川の流れを楽しめることは長門湯本温泉ならではの魅力です。
- ・このような魅力を最大限活用してきた結果として、2階以上の川に向けた水平に連続する開口部が、長門湯本温泉の町並みの特徴となっています。



○水平に連続する開口部



○川に対して開放的な旅館の設え



○俵山温泉にも共通する温泉街の魅力



音信川の眺望を楽しめる連続窓があった昔の大谷屋



町家では2階の連続窓には格子が設置される（萩市）



○川の眺めを楽しむ文化は長門湯本温泉の魅力

【開口部の意匠】

開口部を構成する、建具、戸袋、窓枠、手摺、高欄などについて積極的に木質化を図りましょう。また、開口部の上部には霜除け庇を設置しましょう。防火性能や断熱気密性能、コストの関係から、やむをえず建具をアルミサッシュとする場合は、黒や濃茶などの落ち着いた色彩としましょう。また、網戸の色彩にも配慮しましょう。

- ・長門湯本温泉の町並みでは、開口部は立面を構成する非常に重要な要素となっています。
- ・開口部は、建具、窓枠、戸袋、手摺、高欄、霜除け庇などで構成されており、これらの要素を木質化することは、町並みに潤いを与えます。
- ・川に対する開放的な設えと安全性を両立するため、開口部には高欄や手摺が設置されています。これらの高欄や手摺の意匠は、大工さんの腕の見せ所でもあり、それが町並みの豊かさを生み出します。
- ・高欄や手摺は防火の制限を受けず、後付けもしやすいため、町並みを演出する上で取り組みやすい要素といえます。



○昔の六角堂の美しい高欄



○木製の高欄や戸袋



○アルミサッシで連続窓を実現した例



○防火の制限のない高欄や木製の手摺（俵山温泉）



○アルミサッシに手摺や窓枠で木質感を演出



○開口部を保護する霜除け庇

【店構え】

下屋庇やオーニングを設置し町並みの連続性を生み出すことや店先空間を演出しましょう。また、老朽化した新建材の看板を外し、修景を図りましょう。

- ・町並みの連続性を生み出し、商店として人を迎える構えとして、下屋庇やオーニングを設置することや店先空間を演出しましょう。
- ・建物を覆う新建材の看板建築やビニール製のテントなどが、時間の経過により老朽化しています。老朽化した新建材の看板を外し、修景を図りましょう。
- ・商店のファサードも建物の外壁と同様に、木材や塗壁などの経年美化する自然素材を積極的に活用することが大切です。



○通り沿いのちょっとした演出



○通り沿いのちょっとした演出



○通り沿いのちょっとした演出



下屋庇で連続性を生み出していたかつての商店



○迎える構えとして通り沿いにデッキテラスを設置



○庇状のオーニング



×看板撤去前（有田）



○看板撤去後（有田）



×ビニール製のテント看板



×劣化した建物を覆う新建材の看板

【シャッター】

夜間や休日の通り沿いの店舗や住宅を閉鎖的に見せないため、建具、ショーウィンドウ、木製格子、透過可能なシャッター等を活用しましょう。閉鎖的な鎧戸シャッターの設置は避けましょう。

- ・「シャッター通り商店街」という言葉に代表されるように、鎧戸シャッターは寂れた町や閉鎖的な町という印象を与えます。
- ・夜間や休日の通り沿いの店舗や住宅を閉鎖的に見せないため、生業や生活の様子が垣間見れることが大切です。閉鎖的な鎧戸シャッターの設置は避けましょう。
- ・開口部への木製格子の設置、セキュリティーサービスの活用など、防犯と景観の両立を目指しましょう。



○1階開口部に木製格子を設置し防犯性を高める



○ショーウィンドウの設置や店内が見え易い木製建具の配慮



○夜もあたたかい灯りでおもてなし



×鎧戸シャッター



○格子や障子越しに生活や生業を感じさせる

【設備機器】

エアコン室外機や自動販売機などの設備機器を通りに露出しないようにしましょう。やむをえず、通り沿いに露出して設置する場合は、木製の柵などで隠すか、設備機器の色彩を濃茶とするなど配慮しましょう。

- ・エアコン室外機、プロパンガスボンベ、ガスボイラー、自動販売機などの設備機器は町並みを乱します。
- ・設備機器は通りから直接見えない位置に設置する、木製の柵などで隠す色彩に配慮することなどが大切です。



×露出した設備機器



○木箱で覆った自動販売機
(高山)



○木箱で囲んだガスボンベと
消火栓の木箱 (高山)



○木柵と簾で室外機を隠す工夫
(高山)



○景観に配慮し木箱で覆われた
ガスボンベ

【サイン・看板】

サイン・看板を設置する場合は、控え目な看板とし、設置個所は極力最小限にしましょう。店舗等の誘導看板の設置は避けましょう。また、素材は、自然素材（木板・陶板・鉄板等）を積極的に活用し、色彩は原色や高い彩度の意匠は避けましょう。

- ・サインや看板には様々な種類がありますが、車のスピードでも視認できるような、大きな看板（壁面広告・屋上広告・サインポール・建植（けんしょく）サイン・看板建築など）は町並みを乱します。
- ・一方、人が歩いて視認できるようなサインは、控え目な看板（壁面看板・袖看板・平置き看板・突き出し看板など）でも構いません。しかし、視認する時間が長くなるため、そのディテールやデザインが重要となります。
- ・サイン・看板を設置する場合は、控え目な看板とし、設置個所は極力最小限にすることが大切です。特に事業所の場所以外に店舗等の誘導看板の設置をすることは避けましょう。
- ・また、デザインされたおしゃれな看板とし、自然素材の活用や色彩に配慮しましょう。
- ・イベント時などの賑わいを演出するための、のれんやのぼりなどもデザインに配慮しましょう。
- ・夜間も看板が読めるように看板をライトアップすることは問題ありませんが、内照式看板は避けましょう。



○軒下のおしゃれな袖看板
(古川)



○平置き看板による町並みに
配慮した看板



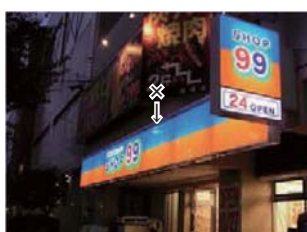
○町並みに配慮した自然素材の
建植看板



○おしゃれなメニュー看板



×ボールサイン等の大きな看板



×内照式看板



×店舗や駐車場の誘導看板

【駐車場・車庫】

駐車している車が町並みに露出しないように、建物や車庫の中に納めることや生垣や板塀などで隠しましょう。独立した車庫も外壁や屋根材料の考え方に準じ、開口部には木製引き戸を設置しましょう。やむを得ずシャッターを用いる場合は、外壁と一体化する色彩としましょう。既製品のカーポートなどは通りに露出させないようにしましょう。

- ・駐車している車は、町並みの連続感を損ない、自然風景にも馴染みにくい要素です。そのため極力、駐車している車が露出しないように配慮することが大切です。
- ・車庫も町並みを構成する大切な要素です。納屋と一体となった車庫や板張りの車庫など、町並みに配慮している例も多くみられます。住まいや商店同様、車庫も町並みに配慮しましょう。
- ・車庫の開口部には木製引き戸を設置し、内部が丸見えにならないように配慮しましょう。やむをえず、シャッターを用いる場合は色彩に配慮しましょう。



×町並みに露出した駐車場



×パイプ車庫



×通りに露出したカーポート



○納屋と一体の車庫、開口部の木製引き戸



○板張りの車庫と濃茶のシャッター



○生垣などで駐車場を露出させない配慮

【付属屋】

地区毎の特性に合った付属屋を継承しましょう。新設する付属屋も外壁や屋根材料の考え方に準じましょう。既製品の物置などは通りに露出させないようにしましょう。

- ・長門湯本温泉には、土蔵、物置、登り窯、水車小屋、車庫など様々な付属屋があります。
- ・対象地区の建物の約半数を占めるのが住宅や店舗ですが、それに次いで多いのが付属屋で、地区の約3割に上り、町並みに与える影響が大きく、その分修景効果も高い要素です。
- ・特に三ノ瀬地区では、水車小屋や土蔵、登り窯、小屋などの様々な付属屋や、萩焼に用いる薪が積まれた様子などが、地区の重要な景観要素となっています。
- ・地区の特性に合った付属屋を継承し、新たに設置する場合も景観に配慮していくことが大切です。



×通りに露出した既製品の物置



×トタン張りの農作業小屋



○川沿いに残る水車小屋



○土蔵



○薪が積まれた三ノ瀬らしい景観

【塀垣・門・擁壁・前庭】

地区毎の町並みの個性や魅力を生み出す塀垣、門、擁壁、前庭の構成を維持・継承しましょう。駐車場や空き地などによって町並みの連続性が途切れている箇所には、塀垣を設置しましょう。新たに塀垣を設置する際は、金網フェンスやブロック塀は避けましょう。

- ・門前地区は、石塀と背後にある前庭が生み出す町並みが特徴的です。
- ・三ノ瀬地区は、石積擁壁や生垣、門、美しい庭園などが一体となって生み出される豊かな町並みが特徴です。
- ・湯本地区の川沿いの建物は、商店などは通りに連続し、旅館や住宅は板塀や石塀、門、前庭などで連続性のある町並みを形成しています。
- ・各地区の塀垣、門、擁壁、前庭などが生み出す町並みの魅力や特徴を継承しましょう。
- ・塀や垣根の高さは圧迫感を与えない高さとし、上部や隙間から背後の緑を垣間見れることが豊かさにつながります。
- ・駐車場や空き地などによって、町並みの連続性が途切れている箇所には積極的に塀垣を設置しましょう。



湯本地区：川沿いに連続する建物と塀垣によって形成される温泉街の町並み



門前地区：石塀と前庭の連続する町並み



三ノ瀬地区：石積と生垣、美しい庭園の町並み

湯本



○前庭と門による町並み形成



○石塀と門と前庭による町並み形成



○前庭による町並み形成



○板塀と前庭による町並み形成

門前



○石塀と前庭による町並み形成



○石塀と前庭による町並み形成



○石塀と前庭による町並み形成



○石塀と前庭による町並み形成

三ノ瀬



○土塀と門と庭園による町並み形成



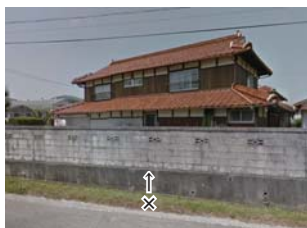
○生垣や美しい庭園による町並み形成



○石積みや美しい庭園による町並み形成



○石積みや生垣、美しい庭園による町並み形成



×単調で圧迫感のあるブロック塀



×金網フェンス



×金網フェンス

建築・外構編：3階建て以上の規模の大きな建物に対するルール

【建物規模】

建物の高さや配置は、周囲の建物の川への眺望を妨げないように配慮しましょう。

- ・長門湯本温泉の建物のうち、6%が3階建て以上です。割合は少ないですが、町並みには大きな影響力があります。
- ・また、建物の窓からの川への眺望は、長門湯本温泉の重要な魅力です。
- ・建物の高さや配置は、周囲の建物の川への眺望を妨げないように配慮しましょう。



○周囲の建物の眺望に配慮された建物配置がなされてきた長門湯本温泉

敷地周辺部の外構デザインなどにより、建物のボリューム感を緩和するように配慮しましょう。

- ・規模の大きな建物のボリューム感を緩和するには、道路と建物との間に緩衝となる植栽空間を設けることが有効です。
- ・敷地周辺部の外構デザインなどにより、建物のボリューム感を緩和するようにしましょう。



○敷地周辺の樹木により建物のボリューム感を緩和

上層部のセットバックや基壇部分のデザインの分節など、建物高さを沿道の町並みになじませましょう。

- ・敷地条件などにより、やむを得ず、通り沿いに規模の大きな建物を建てる場合も考えられます。
- ・沿道沿いに3階建て以上の建物を建てる場合は、上層部のセットバックや基壇部分のデザインの分節など、建物高さを沿道の町並みに馴染ませましょう。



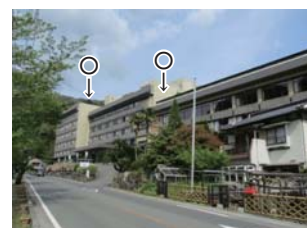
○通り沿いは平屋、奥に高層棟を建てる配慮



○1階に下屋を設け町並みのスケールに合わせる

連続する壁面が大きい場合、長く単調な壁面を連続させず、適度に分節したデザインとしましょう。

- ・規模の大きな建物が連続する町並みは単調なイメージを与えます。
- ・連続する壁面が大きい場合、長く単調な壁面を連続させず、分棟とすることや雁行させる、色彩や壁面に変化を持たせるなど、適度に分節したデザインとしましょう。



○雁行させることで連続する壁面を適度に分節

【開口部】

連続窓や高欄、肘掛手摺など、長門湯本温泉の川への眺望を楽しむ文化が生み出してきた温泉街の風情を継承しましょう。

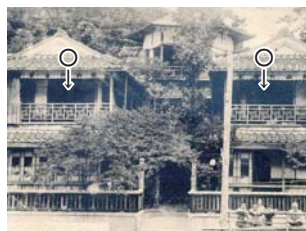
- ・川への眺望を楽しむことは長門湯本温泉の大きな魅力です。その結果、多くの旅館が川に対して開放的な設えとなっており、水平方向の連続窓や高欄、肘掛手摺などがその表れとして温泉街の風情を生み出してきました。
- ・連続窓や高欄、肘掛手摺など、長門湯本温泉の川への眺望を楽しむ文化が生み出してきた温泉街の風情を継承しましょう。



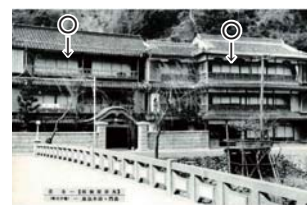
○川を眺める魅力は現代も長門湯本温泉の楽しみ



○川床テラスから川の眺望を楽しむ



○2階の開口部や置き座から川の眺望を楽しむ



○川に対して開放的な設えとそれによって生まれる温泉街の風情



○川に対して開放的に建てられてきた旅館

【建物意匠】

凹凸のない単調な外壁の意匠は避け、温泉街の風情を感じる豊かな建物の表情を生み出しましょう。

- ・凹凸の無い単調な外壁の意匠は避け、外壁を雨風から守る軒の出の確保や開口部へ庇を設置するなど、温泉街の風情を感じる豊かな建物の表情を生み出しましょう。



○軒の出や水平線の強調による豊かな表情



○単調な外壁の意匠に木製手摺を設置し風情を出す



○軒の出、庇、高欄など、表情豊かなかつての旅館



○軒の出の確保、水平線の強調、手摺の設置など風情を出す様々な工夫

【建物色彩】

外壁の色彩は自然素材が経年美化した色調である、白、ベージュ（聚楽系）、グレー、濃茶などのアースカラーとしましょう。

- ・木材が経年美化した、グレーや濃茶、漆喰壁の白、土塗壁のベージュ（聚楽系）など、外壁の色彩は自然素材が経年美化した色調である、白、ベージュ、グレー、濃茶などのアースカラーとしましょう。



○グレーのアースカラーで構成される旅館



○ベージュ（聚楽系）で構成される旅館



○様々なアースカラーの組み合わせ構成される旅館

【屋根色彩】

赤瓦以外の屋根や庇の色彩は、グレーや黒などの落ち着いた色彩を採用しましょう。

- ・長門湯本温泉の規模の大きな建物の屋根は勾配屋根や陸屋根が混在しています。
- ・勾配屋根では屋根が重要な景観要素となります。一方、陸屋根の場合でも設備機器の目隠しとしての格子や庇などを設置する場合があります。
- ・赤瓦以外の屋根や庇の色彩は、グレーや黒などの落ち着いた色彩を採用しましょう。



○様々な勾配屋根が混在する旅館の外観



○赤瓦以外はグレーや黒等の落ち着いた色彩を採用

【設備機器】

設備機器が町並みを乱さないように設置位置や目隠しに配慮しましょう。

- ・温泉旅館や集合住宅の設備機器は、貯水槽や貯湯槽、エアコン室外機など非常に多くなります。
- ・設備機器が町並みに露出しないように設置位置や目隠しに配慮しましょう。



○通り沿いは傾斜屋根とし、背後の陸屋根部分に設備機器を隠す工夫

【サイン・看板】

看板を設置する場合は、町並みを乱さないように、適切な規模やデザインに配慮し、設置個所は極力最小限にしましょう。また、大型の建植サイン、ポールサイン、内照式サイン等の設置は避けましょう。

- ・長門湯本の大型建物のサインには、建物の壁面や屋上に建物の名称を表示する文字型のサインや通り沿いなどに設置する建植サインが多くみられます。これらは、温泉街の風情を意識したものといえます。
- ・サインや看板には様々な種類がありますが、車のスピードでも視認できるような、大きな看板（壁面広告・屋上広告・サインポール・建植サイン・看板建築など）は町並みを乱します。
- ・看板を設置する場合は、町並みを乱さないよう、適切な規模やデザインに配慮し、設置個所は極力最小限にしましょう。
- ・また、大型の建植サイン、ポールサイン、内照式サイン等の設置は避けましょう。



○屋上などの文字型のサイン



○平置き看板による町並みに配慮した看板



○町並みに配慮した自然素材の建植看板



×ポールサイン等の大きな看板



×内照式看板



×店舗や駐車場の誘導看板

【敷地境界のデザイン】

敷地周縁部は板塀や石塀、門、生垣や庭園などにより、長門湯本温泉らしい上質な街並みの形成を目指しましょう。新たに塀垣を設置する場合は、金網フェンスやブロック塀は避けましょう。コンクリート擁壁も極力露出させないように配慮しましょう。

- ・敷地境界は町並みに与える影響が非常に大きい場所です。これまで長門湯本温泉では、板塀や石塀、門、生垣や庭園などにより敷地境界を演出し、豊かな町並みを形成してきました。
- ・敷地周縁部は板塀や石塀、門、生垣や庭園などにより、長門湯本温泉らしい上質な街並み形成を目指しましょう。
- ・敷地境界に背の高いブロック塀や既製品の金網フェンス、コンクリート擁壁などを用いると、町並みの調和が崩れます。新たに塀垣を設置する場合は、金網フェンスやブロック塀は避けましょう。



×金網フェンス



×圧迫感のある
コンクリートブロック塀



×無機質な
コンクリート擁壁



○門、塀、生垣、高木で
構成される上質な構え



○造園による法面の処理

【駐車場のデザイン】

駐車場に駐車している車が町並みに露出しないように、駐車場の配置を配慮することや生垣や板塀で隠しましょう。また、駐車場の入口は極力集約し、入口の幅は最小限としましょう。

- ・旅館や集合住宅などの大規模な建物には、宿泊者や入居者向けの大規模な駐車場が必要です。しかし、温泉街の町並みに駐車した多くの車が露出することは町並みの調和を崩します。
- ・既に多くの旅館が、駐車場を目立たない場所に設置する、生垣などで隠す、地下駐車場とするなど、駐車場を露出させない様々な配慮がなされています。
- ・駐車場に駐車している車が町並みに露出しないように生垣や板塀で隠しましょう。
- ・また、駐車場の入口是集約し、入口の幅は最小限としましょう。



×町並みに露出した
通り沿いの駐車場



×町並みに露出した
通り沿いの駐車場



○入口を集約化し、生垣や高木
などで駐車場を隠す



○生垣で駐車している車を隠す
配慮



○板塀や門で駐車場を隠す配慮

夜間景観編：夜間景観に対するルール

「訪れたい風景」「散歩する楽しさ」「住みたい誇り」につながる「長門湯本らしい夜間景観」のために以下の6つの項目に対して守るべき目標を設定します。

- ①あかりの色（色温度） 温泉地らしさのために
- ②あかりの点灯時間 安全安心を強化
- ③豊かな緑を活かすルール 誰もが感じる美しさ心地よさと安心感
- ④まちのシンボルや特徴を活かす 町全体をミュージアムへ
- ⑤まちの顔づくり 長門湯本だとひとめでわかる夜景をつくる
- ⑥サイン / 看板の照明 上質な観光地にふさわしいデザインへ

【あかりの色】

まちのあかりの色は、電球色にしましょう。

- ・黄色く、暖かみのある光の色を「電球色」と呼びます。
- ・温泉街や住宅地では、寒々しい白色の光よりも、情緒的で落ち着きのある電球色が似合います。
- ・蛍光灯にも LED 電球にも電球色があります。



× 白色のさびしい旅館街



× 白色の旅館宴会場



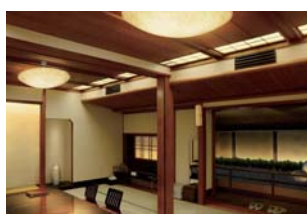
× 白い防犯灯の目立つ住宅街



○ 落ち着いた電球色で統一された旅館



○ 電球色のおちついた旅館街



○ 電球色の上質感のある
旅館宴会場



○ 電球色のあたたかな住宅街



○ 壁付け灯による演出

【あかりの点灯時間】

門灯や軒先の提灯などの外部の明かりや道に面した窓際やお店のあかりは22時まで点灯しましょう。

- ・夜のそぞろ歩きが楽しく、暗がりのない安全安心な街並みをつくりましょう。
- ・タイマーを付ければ、自動で点灯・消灯をすることも可能になります。また光源が LED であれば、点灯時間を長くしても電気代は僅かです。（7W の LED 電球 1 つあたり、5 時間点灯で ひと月あたり 28 円程度です。）



× 街灯、建物の漏れ光もなく歩行に不安のある道



○ 漏れ光や軒先の提灯で安心感と情緒のある通り（天橋立）



○ 建物 2 階の灯りは、閉店後も点灯している（倉敷）

○ 置き照明による演出

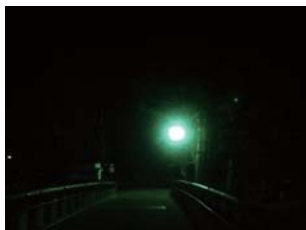
【豊かな緑を活かすルール】

道や広場に面した樹木は、できるだけライトアップしましょう。

- ・昼間は癒しを与えてくれる樹木ですが、夜になると影になり暗がりをつくってしまいます。道や広場から見える庭木をライトアップすることで、安心感と心地よさをまちにもたらしめます。
- ・参道や散策路など民間敷地の緑がまちの景観をつくっている場合も多いので、わずかでも樹木のライトアップができれば、大きな安心感のある貴重なまちの風景となります。
- ・ライトアップも、暖かみのある電球色のあかりで行いましょう。



×樹木が暗がりをつくっている



×松林があるが真っ暗で何も見えない



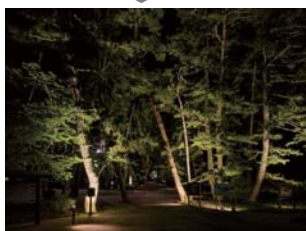
×街灯があるが樹木が影になり暗いプロムナード



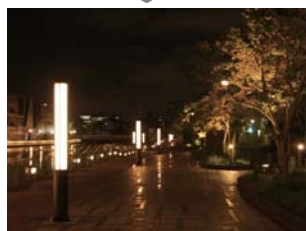
○敷地周縁部の演出・門・樹木



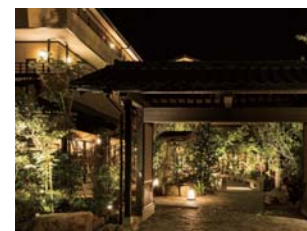
○ライトアップで樹木が主役になった旅館の中庭



○立派な松がライトアップされ夜の散策が可能



○樹木がライトアップされ安心感あるプロムナード



○庭園や室内あかりの漏出し

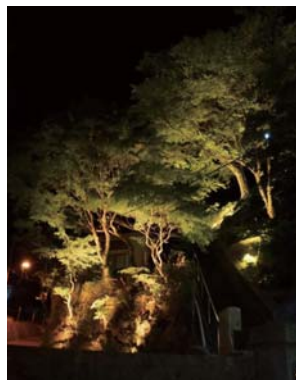
【まちのシンボルや特徴を活かす】

まちのシンボルをライトアップしましょう。

- ・大寧寺や住吉神社のような由緒ある寺社仏閣、三ノ瀬の登り窯、街の中に多く見られる石垣や橋などは長門湯本温泉ならではの大切な景観資源です。また、足湯・源泉などの施設、旧恩湯のネオンなども、新たにつくられる恩湯施設などのランドマークとともに、まちの物語を語るシンボルです。
- ・これらのシンボルの演出やランドマークのライトアップによって、今まで以上にまちの記憶を大切にしたい・住みたい長門湯本に育てていきましょう。



×暗闇で何があるか夜間にはわからなくなっている



○住吉神社の階段のライトアップ



○お地蔵様のこみち（大寧寺参道）のライトアップイメージ



○石垣のライトアップイメージ

【まちの顔づくり】

軒先に長門湯本温泉オリジナルデザインの提灯をつけましょう。

- ・ 共通のデザインの提灯を街中の軒先につけることで、「ひとめで長門湯本だとわかる風景」、「ここ
でしか見れない街並み」をつくることができます。
- ・ 長門湯本温泉のオリジナルデザインの提灯を掲げ、情緒的な温泉街の夜景づくりを行いましょう。



○通り毎に異なるオリジナル
提灯の情緒的な雰囲気



○軒先にオリジナル提灯をつけ
たイメージ



オリジナル提灯デザイン案

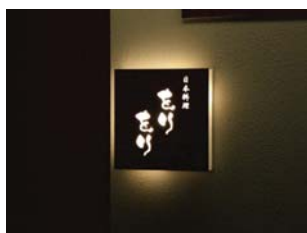


【サイン・看板の照明】

下記のような看板は、温泉地や住宅地に相応しくないので、できれば改善しましょう。

○眩しすぎる ○派手な色彩 ○速い速度で動く・点滅する ○大きな音がでる

- ・ 大寧寺や住吉神社のような由緒ある寺社仏閣、三ノ瀬の登り窯、街の中に多く見られる石垣や橋
- ・ 白すぎる内照式の看板は、落ち着いた温泉地には似合いません。既存の看板がある場合は眩しさが夜間景観阻害の原因となる場合もあるので、買い替えなどのタイミングで電球色に変えましょ
う。
- ・ 切文字（箱文字）型のバックライト文字や、外から照らす板状の看板は、上質な印象や和風のま
ちなみをつくります。
- ・ 提灯や行灯のような和風のものは、内照式でも情緒があるため、推奨されます。



○切り文字の看板



○外照式の看板、提灯の看板



○行灯の看板



×派手な内照式看板
原色のネオン



×眩しく、派手な色、速い動き、
大きな音の出る看板
(デジタルサイネージ)



×派手な色、速い動きの看板



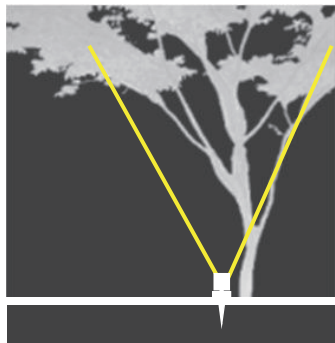
×内照式看板

あかりの工夫・ノウハウ集

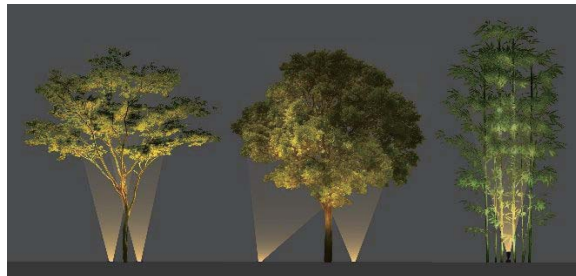
素敵な夜間景観は、公共・店舗や旅館・住宅のすべてが創り出す風景です。
以下に簡単なあかりづくりのコツをまとめてみました。ぜひ、みんなで取り組みましょう。
選び方の基本は「LED」「電球色」です。

【樹木や花壇の演出】

基本的に、真下から上に向かって照らします。幹にできるだけ近い場所に設置します。



スパイク式のスポットライトを使えば、自由に地面に刺せるので、樹木を見ながら調整できます。

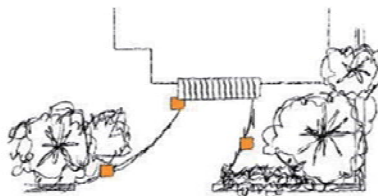


樹形によって照らし方にコツがあります。大きく枝が広がった樹形では複数のスポットライトで照らすのが良いでしょう。
斜めに照射した場合に、窓などに差し込まないように注意しましょう。

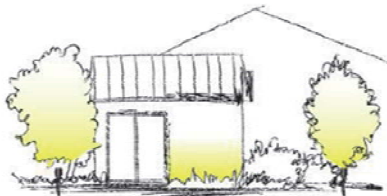


住宅や店舗・旅館のファサードであれば、LED10～15W 程度、500～1000lm(ルーメン・明るさを示す単位)程度が目安です。光源の配光角度を選ぶ場合は、樹木なら「広角・40°」程度が目安です。

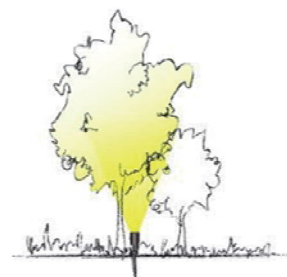
【旅館らしさをつくるコツ】



エントランスアプローチを印象的にするのに行灯が有効です。



玄関前に樹木がある場合は、ライトアップしましょう



スポットライトは、樹木の真下から真上に照射し、客室などに差し込まないように注意しましょう。



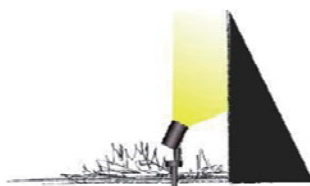
行灯の置き方
園路に沿って同じ側に置くとモダンな印象に、交互に（千鳥配置）置くと和風らしさが際立ちます。スポットライトで道を照らす方法もあります。



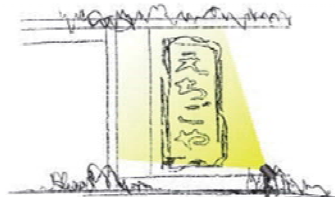
横に長いファサードの場合は、行灯などを連灯するのも風情があります。



玄関まわりの印象も重要です。樹木がなくても、壁や竹垣などの陰影に注意し、鉛直面（縦の面）の雰囲気づくりをしましょう。



壁などのライトアップにもスパイク式のものが有効です。



屋号の看板などはできるだけ内照式（内側に光源があり発光するもの）をさけ、木製の看板などにして、外側から照らしましょう。

【電気工事なしで庭のあかりを設置する】

あかりの設置は、屋外にコンセントがあれば簡単です。防水プラグのタイプであれば、延長コードで分岐も可能です。光源は、現在ではほとんどがLEDなので安心です。電球色を購入しましょう。



屋外用コンセント
このコンセントであれば
防水プラグでなくても
差し込めます。



防水プラグ
この形のプラグであれば、延長コードで遠くまで伸ばす
ことができます。



屋外用延長コード
この形の延長コードであれば、庭にそのまま
ころがしておくことができます。

*差し込むプラグも必ず「防水型」で
なければいけません。

100V 照明器具の例

LED電球



屋外にコンセントが1つしかない場合は、
100V（ボルト）仕様の器具だと、器具の設置数
が限られます。複数設置したい場合は12V（ボルト）
の照明器具がおすすめです。

12Vの器具は、屋外コンセントに「電源」をさして、その電源に照明器具を差し込んで使います。
1つのコンセントから複数の照明器具を設置することができます。（総容量があるので注意）

12V 照明器具と電源の例



プラグ付



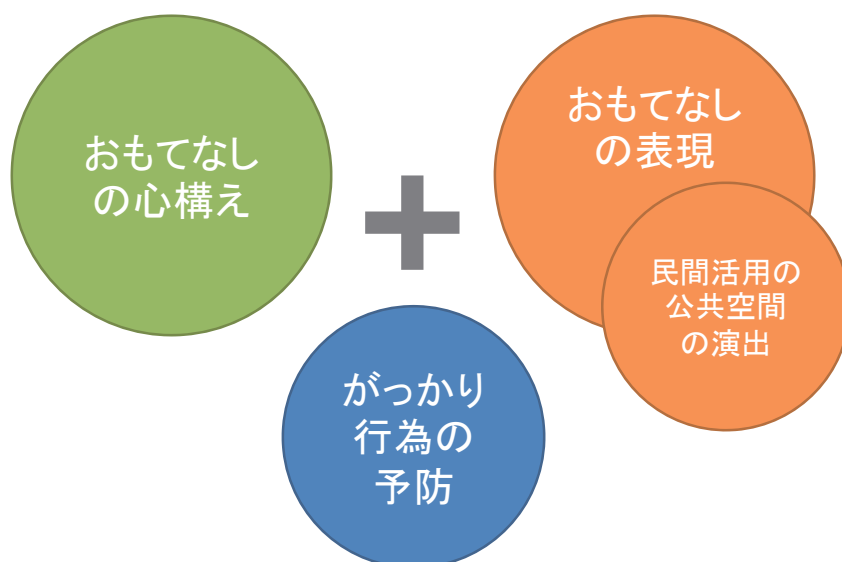
【照明器具はどこで買える？】

照明器具はあまり店頭にありません。よく知っている電気屋さんに相談するのが一番ですが、
インターネットなら様々なメーカーのものが手軽に安く購入できます。

おもてなし編：建物前や地先を使ったおもてなしのアイデア

【おもてなし表現とは】

- ・おもてなし表現とは、建物正面や建物と道の中間領域（＝軒先、店先、庭先、地先など）に、アイテム（道具）をかざることで、おもてなしの気持ちをまちに表す取り組みです。
- ・人々が心地よいと感じる景観は、見た目が美しいだけでなく、自分が大切にされているとか、歓迎されているという印象が伝わることで生まれます。おもてなし表現が沢山ある通りは、魅力的に見えます。
- ・地域やその場所の物語が伝わる『自慢』のアイテム（商品も含む）をさりげなく飾り、それを観光者が気持ちよく受け取れると『感動』が与えられます。
- ・一方、観光者は、旅行前情報から感じ取ったその地域らしさを期待しているため、その期待と違うよくある景色にはがっかりした気持ちになります。こうしたことは、将来的に外部資本の店舗等が進出してきた時に起こりがちです。地域の価値を落とさないように、こうした「がっかり行為」の予防策をあらかじめ共有しておくことが重要です。
- ・具体的なおもてなしをできるところから始めてみましょう。



おもてなし編のガイドラインは『おもてなしの心構え』、『おもてなしの表現』、『民間活用の公共空間演出』と『がっかり行為の予防』で構成しています。

【おもてなしの心構え】

日頃からのおもてなしの心構えを大切にし、来街者の方々と自然体で接しましょう。

- ・日頃から町の清掃、美化に取り組み、自らの日常の生活に潤いをつくりましょう。
- ・観光客としてよそ者コミュニケーションをするのではなく、自然体でフェア（誰でも区別なく）に接するのがおもてなしです。
- ・お客さんを商売の対象としてみるよりエリアのファンや住人になってくれる人とみてみましょう。



○日頃からの清掃



○河川の美化活動



○自然体でフェアに接する
おもてなし



○長門湯本温泉の
ファンをつくる

【おもてなしのコンシェルジュ】

地元ならではのコンシェルジュで長門湯本温泉のファンをつくりましょう。

- ・まちを案内できるコンシェルジュ、案内人を育てていきましょう。
- ・まちの本物の魅力やストーリーを感じてもらえるまち案内をしましょう。



ちょっとしたまち案内、まち紹介が
観光客を楽しませます。



町の人がもてなしアイテムをつけることは、
最大のおもてなし表現でしょう。

【おもてなしの演出】

住宅、旅館、店舗それぞれの工夫で、おもてなしの表現を演出しましょう。また、自らの軒先やお庭、各旅館の1階の一部を開き、それぞれの特徴を出し、来街者がそぞろ歩きで寄りたくなる場所として積極的に活用しましょう。

- ・建物の正面や、建物と道の間領域（＝軒先、店先、前庭、地先）に、挨拶や歓迎の気持ちを表すアイテムを多く置きましょう。挨拶アイテムは住宅を含む全ての敷地で、歓迎アイテムはお客様を迎える旅館や商店で推進しましょう。一方、宣伝アイテムは多すぎると逆効果になりがちなので、フォトジェニックな（写真が撮りたくなるような）陳列や、または控えめに置きましょう。

<たくさん置きましょう>

挨拶アイテム（こんにちは!）：花鉢、植木、行灯や提灯等の明かりを見せる照明、手作り飾り等
歓迎アイテム（いらっしやいませ!）：のれん、ベンチ、パラソル、テーブル、メッセージ看板、木デッキなどの誘導舗装、等

<慎重に置きましょう>

宣伝アイテム（買って行って!）：メニュー掲示、商品陳列、商品看板、メーカ支給看板、等



商品陳列の仕方を工夫しましょう。（店舗）



○魅力的な商品陳列
（センザキッテン）

暖かい色の電球を
選びましょう。

ベンチはゆっくりして
いってね！の気持ちを
伝えます。



手書きのサインボードは気持
ちが伝わります。

花鉢、プランターは素焼きや
陶磁器などの風合いのあるも
のや花台を使いましょう。
(プラスチック製や汚れや劣
化が目立つのは逆効果になり
がちです。)

玄関やお店の前に花を飾りましょう（店舗）

手書きの案内



○おそろいの提灯

まちでおそろいの提灯

のれん

行灯

自慢の工芸品などを外から
(垣間) 見えるように展示

旅館の一部をそぞろ歩きが楽しめる使い方にする例（旅館）



通りに花を飾りおもてなしを演出しましょう。
(住宅等)



季節を感じるおもてなしを演出しましょう。
(住宅・旅館・店舗等)



お庭に憩いの場を併設することもおもてなし表現として有効です。(住宅・店舗・旅館)



メッセージ看板や植物でおもてなしの挨拶を伝えましょう。(住宅・店舗・旅館)

【公共空間の演出】

周辺の河川や道路を風情が感じられる空間に設えましょう。

- ・音信川沿いの風景を活かし、四季や時間の流れを感じられる居場所にしていきましょう。
- ・川床や置き座などの川を楽しむ装置や、川沿いの道路に川を眺めながら佇めるベンチを設置するなど周辺の河川を風情が感じられる空間に設えましょう。
- ・安心してそぞろ歩きや外湯巡りができ、屋外で飲食や買い物が楽しめる温泉街を実現するため、周辺の道路を魅力的に活用しましょう。

道路空間の
仮設のお店

道路空間の
休憩場所



店先空間のお店

デザインに配慮
したストリート
ファニチャー

屋外で飲食や買い物を楽しめる温泉街を実現するため道路空間を活用しましょう。

道路空間の
飲食休憩場所



店先空間のお店

屋外の飲食可能
な場所

安心してそぞろ歩きや外湯巡りができる温泉街を実現するため道路空間を活用しましょう。

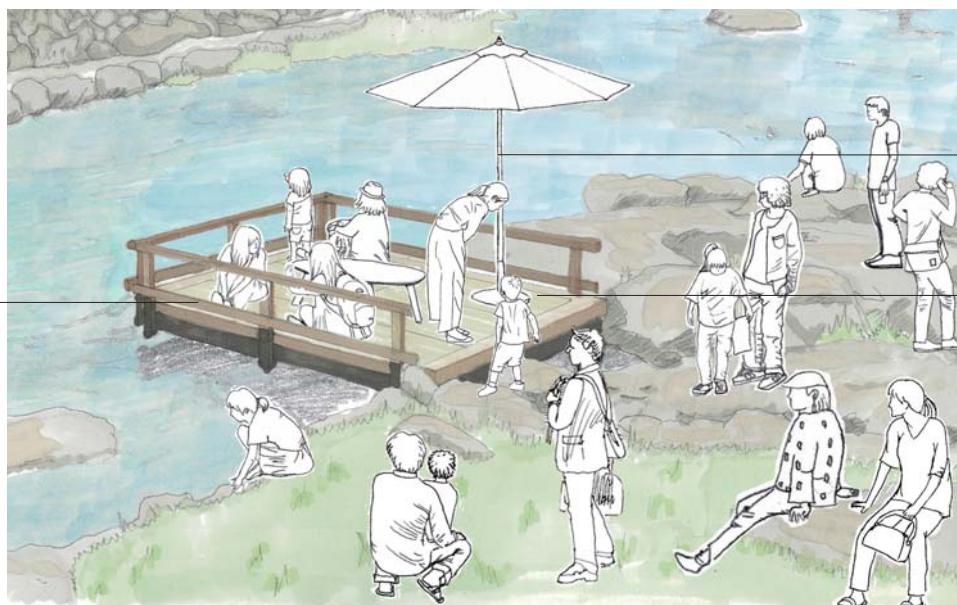
風情ある
木製の置き座



河川空間の
飲食休憩場所

川のせせらぎをより楽しめる温泉街を実現するため置き座を設置する等、河川空間を活用しましょう。

風情ある
木製の川床



デザインに配慮
したストリート
ファニチャー

河川空間の
飲食休憩場所

川中の魅力を楽しめる温泉街を実現するため川床を設置する等、河川空間を活用しましょう。

【がっかり行為の予防】

魅力を損なう「がっかり行為」を予防しましょう。

- ・観光地に来たのにがっかりすることがあります。どこにでもあるチェーン店がお土産を販売している、派手な看板や人形が展示されているなどです。これらのお店は多くの場合、地域の組織にも加入しないため、商売のやり方にものをいうこともできないという状況が多くの観光地で起こっています。
- ・日常の営業活動のやり方について、新たに入られる事業者の方にあらかじめ長門湯本の目指す将来像やルールを認識していただくことが大切です。また建物オーナー側もあらかじめルールを共有すれば、ふさわしい事業者かどうかをあらかじめ判断でき、未然にトラブルを防ぐことができます。具体的には、次のようなことをあらかじめ取り組むのが有効です。

①外部の事業者は物件の賃貸・売買の前に地域のルールを説明し、了解の上入ってもらいましょう。

- ・外部からの商業者、事業者が増えることを予想し、（外観だけでなく）地域らしさを失わない日常の営業活動についての商いの仕方を明文化（やってほしくないことを予想し、予防！）しておくことが有効です。
- ・また、建物オーナーが事業者に物件を貸したり売ったりする前に、ルールを伝えて納得いただき、あらかじめ地域活動や祭への参加を勧誘し、地域を支える側の役割を期待することも大切です。

②非自家用広告を規制しましょう。

- ・自分の敷地以外に出す看板（非自家用広告）を原則禁止することが有効です。（力のある外部資本店舗はやりがち）



×非自家用看板



×非自家用看板

③営業の仕方についてのルールを決めましょう。

- ・過剰な呼び込みの禁止、節度ある商品の道側へのあふれ出しの仕方（商品オブジェの禁止など）、ふさわしい営業時間など、営業の仕方についてルールを決めることが有効です。



×商品オブジェ



×典型的な土産物屋



×24時間営業の店

建築編：2階建て以下の規模の小さな建物に関するルール

| 項 目 | | 推奨ルール | 最低限守るルール |
|-----------|--------|--|--|
| 建築物のデザイン | 屋根形状 | 2方向以上に勾配のある屋根とし、軒の出を確保すること 屋根勾配は周囲の町並みに調和させること | |
| | 屋根材料 | 赤瓦の瓦屋根を基本とする | 赤瓦以外を採用する場合は、屋根の色彩は黒又はグレーとする |
| | 開口部 | 川に対して開放的な設えとする 木製建具、戸袋、窓枠、手摺、高欄、霧除け底などにより積極的に木質化を図る | アルミサッシュなどを採用する場合は、建具の色彩は外壁などと調和するグレーや濃茶等とする |
| | 外 壁 | 板張り、塗り壁など自然素材を積極的に活用する | その他の素材を用いる場合は、色彩は自然素材が経年美化した色調である、白、ベージュ（聚楽系）、グレー、濃茶等のアースカラーとする |
| | シャッター | 夜間や休日の店舗等を閉鎖的に見せないため、建具、ショーウィンドウ、透過可能なシャッター等を使用する | 鎧戸シャッターの新規設置は避ける |
| | 店構え | 下屋庇やオーニングの設置、デッキテラスの設置、おもてなし表現などにより人を迎える構えとする | ファサードを覆う看板建築は避ける |
| | 設備機器 | 設備機器を通りに露出させない | 通りに露出する場合は、木製の柵などで隠すか色彩を濃茶とする |
| | サイン・看板 | サイン・看板は、過度な大きさ・掲出数を避ける サイン・看板は自然素材（木板・陶板・鉄板等）を積極的に活用する のれんやのぼりの意匠も配慮する | 事業所の誘導看板の設置は避ける 内照式看板の設置は避ける 色彩は原色や高彩度色は避ける メンテナンスを怠らず、老朽化したものは撤去する |
| 工作物のデザイン | 車庫 | 納屋と一体となった車庫を継承 車庫の外壁は板張りを基本とする 開口部には木製扉を設置する | 車庫にシャッターを用いる場合は濃茶などの色彩とする 屋根の色彩は黒又はグレーとする カーポートを設置する場合は通りに露出させない |
| | 付属屋 | 地区の特性に合った付属屋の設えを継承する 付属屋の外壁は板張りを基本とする | 屋根の色彩は黒又はグレーとする 既製品の物置等は通りに露出させない |
| 敷地境界のデザイン | | 地区の特性に合った塀垣・門・擁壁・前庭の設えを継承する 町並みの連続性が途切れている箇所には、積極的に塀・垣を設置する | 金網フェンスやブロック塀の新規設置は避ける |
| 駐車場のデザイン | | 駐車している車を通りに露出させない | |

建築編：3階建て以上の規模の大きな建物に関するルール

| 項 目 | | 配慮事項 | |
|-----------|--------|---|--|
| 建築物等のデザイン | 建物規模 | 建物の高さや配置は周囲の建物の川への眺望を妨げないよう配慮する 建物のボリューム感を緩和するよう配慮する 建物高さを沿道の町並みに馴染ませるよう配慮する 連続する壁面を分節し町並みに馴染ませるよう配慮する | |
| | 開口部 | 川への眺望を楽しむ文化が生み出してきた温泉街の風情を継承する | |
| | 外 壁 | 単調な外壁の意匠は避け、温泉街の風情を感じる豊かな建物の表情とする 外壁の色彩は自然素材が経年美化した色調である、白、ベージュ(聚楽系)、グレー、濃茶などのアースカラーとする | |
| | 屋根 | 赤瓦以外を採用する場合は、屋根の色彩は黒又はグレーとする | |
| | 設備機器 | 設備機器を通りに露出させない | 通りに露出する場合は、木製の柵などで隠すか色彩を濃茶とする |
| | サイン・看板 | サイン・看板は、過度な大きさ・掲出数を避ける | 事業所の誘導看板の設置は避ける 内照式看板の設置は避ける 色彩は原色や高彩度色は避ける メンテナンスを怠らず、老朽化したものは撤去する |
| 敷地境界のデザイン | | 板塀や石塀、門、生垣や庭園などによる上質な町並みを目指す | 金網フェンスやブロック塀の新規設置は避ける コンクリート擁壁の露出は避ける |
| 駐車場のデザイン | | 駐車している車を通りに露出させない 駐車場の入口は集約し、幅は最小限とする | |

夜間景観編：夜間景観に関するルール

| | |
|----------------|--|
| あかりの色 | まちのあかりの色は、電球色にしましょう。 |
| あかりの点灯時間 | 門灯や軒先の提灯などの外部の明かりや道に面した窓際やお店のあかりは 22 時まで点灯しましょう。 |
| 豊かな緑を活かすルール | 道や広場に面した樹木は、できるだけライトアップしましょう。 |
| まちのシンボルや特徴を活かす | まちのシンボルをライトアップしましょう。 |
| まちの顔づくり | 軒先に長門湯本温泉オリジナルデザインの提灯をつけましょう。 |
| サイン・看板の照明 | 温泉地や住宅地に相応しくサインや看板の照明は改善しましょう。 |

おもてなし編：に関するルール

| 項 目 | 配慮事項 |
|---------------|---|
| おもてなしの心構え | 来街者の方々と素で接しましょう。 |
| おもてなしのコンシェルジュ | 地元ならではのコンシェルジュでファンをつくろう。 |
| おもてなしの演出 | 自らの軒先や庭、旅館の 1 階の一部をそぞろ歩きが楽しめる使い方にしましょう。 |
| 公共空間の演出 | 周辺の河川や道路を風情が感じられる空間に設えましょう。 |
| がっかり行為の予防 | <p>魅力を損なう「がっかり行為」を予防しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 外部の事業者による物件の賃貸・売買の前に地域のルールを説明し、了解の上入ってもらう ② 自家用広告を規制する ③ 営業の仕方についてのルールを決める |

